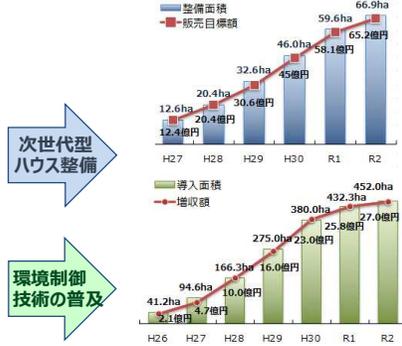
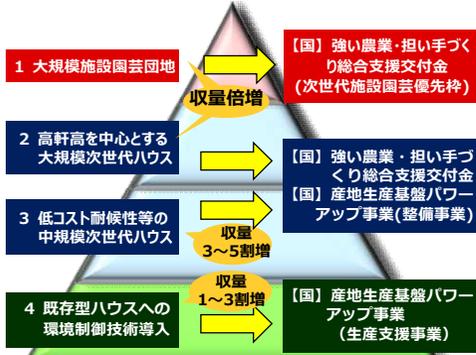


これまでの取り組み（成果）

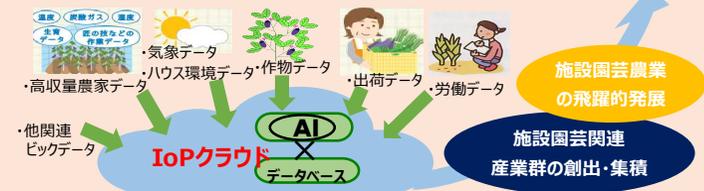
高知県では、強い農業・担い手づくり総合支援交付金や産地生産基盤パワーアップ事業を活用し、次世代型ハウスの整備や既存ハウスへの環境制御技術の導入に取り組んできた。令和2年度末時点で、**次世代型ハウスは66.9ha**、**環境制御技術導入面積は452ha**まで普及した。



Next 次世代型こうち新施設園芸システム

IoPプロジェクトの推進

- 産学官連携プロジェクトにより、IoP (Internet of Plants) 等の最先端の研究を進展
- 栽培、出荷、流通までを見通した**データ共有基盤「IoPクラウド」**に様々なデータを自動で収集・蓄積 (R3:IoPクラウドプロトタイプの見直し・改良)
- 通信機能を備えたデバイス等の開発促進
- 集積データを営農、研究、開発、新たなサービス展開などに活用



これからの取り組み

データ駆動型農業による営農支援の強化

- 作物情報や環境情報等の**ビッグデータ**を駆使し、普及指導員が個々の生産者の栽培状況等を様々な角度から**分析・可視化**
- 生産管理の予測や意思決定に役立つ情報を、生産者にリアルタイムでフィードバック



データ駆動型農業では、先進農家だけでなく、**産地全体**が取り組み、多くのデータを収集・分析・フィードバックすることが重要であり、まずはデータを収集する生産環境の整備が必要。

しかし・・・

- 既存事業は、品目別の面積要件など様々な制約があり、産地全体での活用がしづらい。また、補正予算のため、計画的な整備、機器の段階的な導入ができない。

※ 個々の営農状況に応じた

- ① 通信機能を備えた**次世代型ハウス**
- ② ハウス内環境を見える化できる**環境制御機器**
- ③ ハウス内環境データをインターネットに繋ぐ**通信機器**

の導入など、**農業のデジタル化に特化した産地全体への支援**が必要です。

併せて、**計画的な事業活用**を可能とするため、**当初予算**における**新たな事業の創設を提案**します。

農業のデジタル化

